



リチャード・J・サミュエルズ日本研究博士論文賞 審査講評

2026年8月

ハーバード大学ケネス・C・グリフィン文理大学院に提出されたジーン・T・キム博士の博士論文

「Upwellings of Oceanic Decolonization: Coastal Governance in Japan and Korea, 1894–1958」（仮訳：海洋脱植民地化の湧昇——日本と朝鮮半島における沿岸統治、1894年～1958年）は、極めて綿密な資料調査と研究に基づいており、非常に独創的で、優れた筆致で書かれています。本論文は、日本と韓国の間における漁業をめぐる競争と保全の取り組みから、海洋の領有権や国際法をめぐる複雑かつ緊迫した議論が生じた「海洋の脱植民地化」という係争的なプロセスを検証しています。日本語、韓国語、英語による豊富な資料を活用し、綿密な文書館調査と現地調査を組み合わせながら、キム氏は半世紀余りの間に、領有権をめぐる対立が、次第に限られ減少しつつあると認識されるようになった海洋生物資源の富をめぐる対立へと移り変わっていく様子を生き生きと描き出しています。

20世紀初頭のみならず現代にも通じる経済的、環境的、法的、政治的な重要な問いに取り組みながら、キム氏は、復興しつつあった日本の漁業が新興の韓国漁業に及ぼすと認識された脅威が、大日本帝国時代の沿岸収奪をめぐる長年消えることのなかった憤りを再燃させた経緯を明らかにしています。当時、韓国側が自国の海洋資源であると主張したものを守ろうとした結果、日本人はかつて自らの漁場であると主張していた海域から締め出されることとなり、最終的には世界の海洋秩序の変化と、より公平な資源アクセス体制の実現につながりました。

委員会メンバー

- **サビーネ・フリュシュトゥック氏**（委員長） | カリフォルニア大学サンタバーバラ校 日本文化研究 高島浩一理事・特別教授
- **デビッド・レーニー氏** | 早稲田大学社会科学学術院 教授
- **筒井清輝氏** | スタンフォード大学 フリーマン・スポグリ国際研究所 シニア・フェロー・トモエ高橋日本研究教授・社会学教授

本賞について

米日財団が運営するこの年次博士論文賞は、米国における若手社会学者に重要な評価を与えるとともに、この分野に参入する新進の研究者を励ますことを目的としています。2024年に「米日財団学者博士論文賞」として創設された本賞は、2026年に、日本研究への生涯にわたる貢献を称え、米日財団の元理事であるリチャード・J・サミュエルズ教授にちなんで改称されました。

米日財団について

米日財団は、日米関係の強化と共通課題の解決を目的とする独立した民間助成財団です。1980年の設立以来、両国で1億ドル以上の助成を通じて多様な取り組みを支援してきました。現在は助成プログラムとともに、500名を超える両国のリーダーを結ぶネットワーク「日米リーダーシップ・プログラム（USJLP）」を運営しています。